

SHINON HORONIC

色  
IRO

は  
WA

匂  
NIO

へ  
E

ど  
DO



## 特集 宇宙船地球号

平成十四年弥生吉祥日発行 卷二十二

眼を覚ませ！

生きろ！

仏陀の激しい叱声が船上に響き渡った。

仏陀の乗った船が嵐にあい荒れ狂う波の中で  
船乗り達は恐怖心から身動きが出来なかつた。

しかし仏陀の厳しい声に皆目覚めた。

生きる勇気と前に進む気持ちがあれば

恐怖は払われいかなる幸運ももたらされると  
仏陀は説かれた。

自殺するほどの決意があれば

何事もなす事が出来る。

生きること。一歩を踏み出すこと。

一步がどんな小さな一步でも

歩み続けることで花が咲き実を結ぶ。

梅も厳しい寒さの中で僅かずつ  
芽を膨らます。

そして美しい香りが満ちる。



PHOTO SHU FUJIWARA

## 特集

### 宇宙船地球号

3



現代の道しるべ

13



お釈迦さまの真理の花束

9

『弘法大師墨蹟聚集』の全貌

阿部龍文



墨蹟聚集の会報より

弘法大師の芸術論 十

精神文化史 研究家 西宮 紘

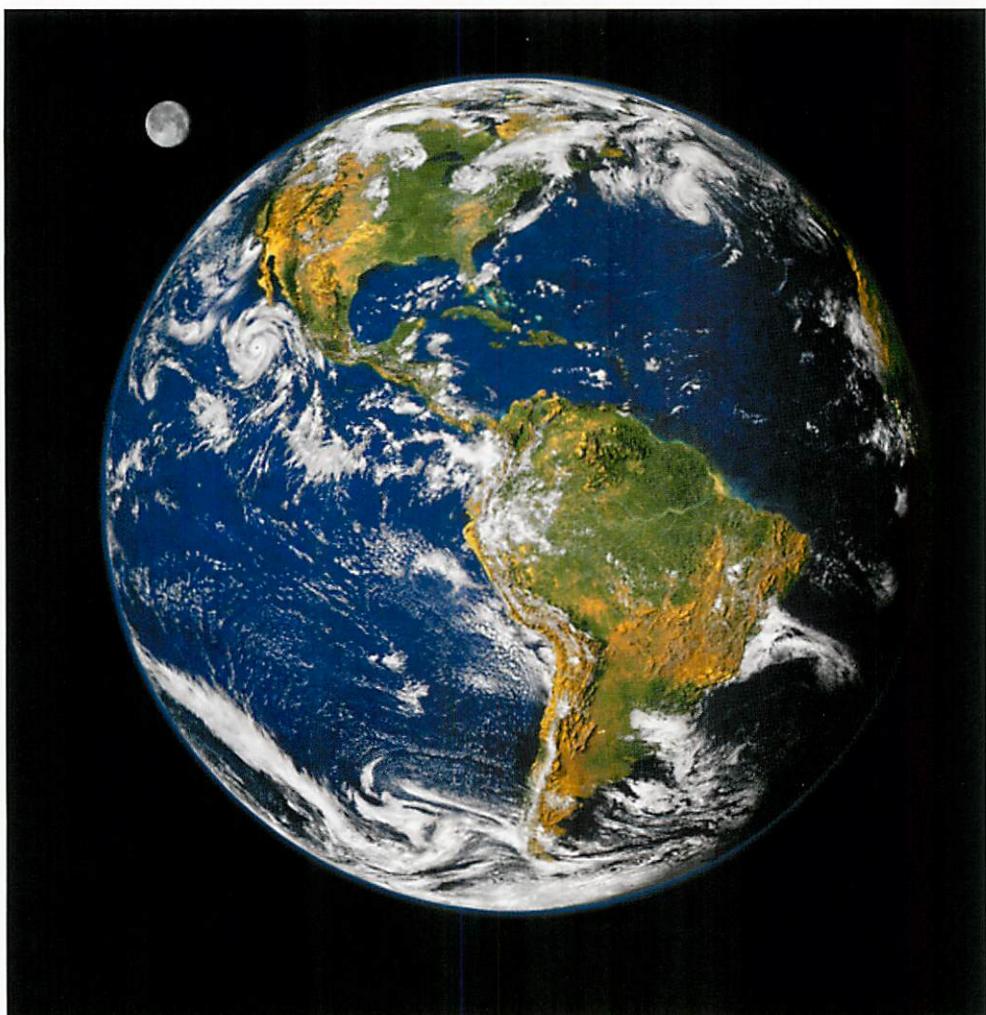
16

11

新刊の紹介

17





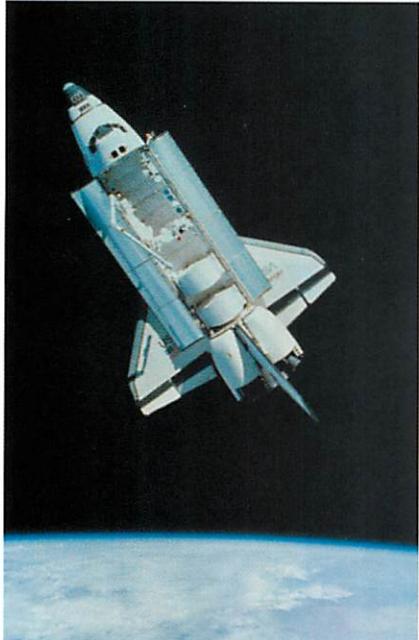
太陽系でもっとも美しい天体、地球。この美しい星に生命が誕生し育まれてきた。

ズバ抜けた存在の建築家であり哲学者であり発明家であった人。  
バックミンスター・フラー。建築界に次々と新しいアイデアを示し、  
地球環境や資源の有限性を訴え、やがて『宇宙船地球号』という  
言葉で人類すべてが同じ航海を分かち合う運命共同体であることを  
人々に気づかせた。

新世紀がテロと戦争で幕を開けてしまったが、今こそ私たちが  
『宇宙船地球号』の乗員であることを再認識したい。

自殺を決意したときには

「人のために生きよう」というビジョンが生まれた



フラーは世界の政治家達を人工衛星に乗せ地球を外から見せたいと真剣に考えていた

今でこそバックミンスター・フラー（通称バックキー）は大きな成功者として有名になつたが、若いときは失敗の連続だった。フラー家は代々ハーバード大学の卒業生でバックキーもハーバードに通うが退学になつてしまふ。海軍に入り結婚して娘を授かるが精髄膜炎にかかつてしまふ。海軍を除隊し収入の良い会社に勤めるがやがて会社は倒産し、娘をも失つてしまう。その時彼は真剣に『死』自殺を考えていた。冷たい湖面を見つめながら。その時、彼の心中多くのビジョンが閃き輝いた。

『苦しみは利己的な考え方と行為から生まれてくる。そして気づいた。私たち一人一人はかけがえの無い存在であり経験の目録だ。私は、他の人たちが私と同じように傷つくことがないよう自分の経験を使うことが出来る。』そして真実の言葉として科学に糸口を見いだす。

しかしそまでの科学技術の多くは兵器という人を傷つけ奪い合うために使われてきた。バックキーは全人類が豊かに共存出来るための科学を追究し、同時にいかに少ない有限な資源を生かしてより大きな生産性を上げるかを考えていた。エコロジーという言葉が生まれる遙か前に。そして『宇宙船地球号』という言葉が心の中にわき上がる。

## 建築家北山恒氏が語る

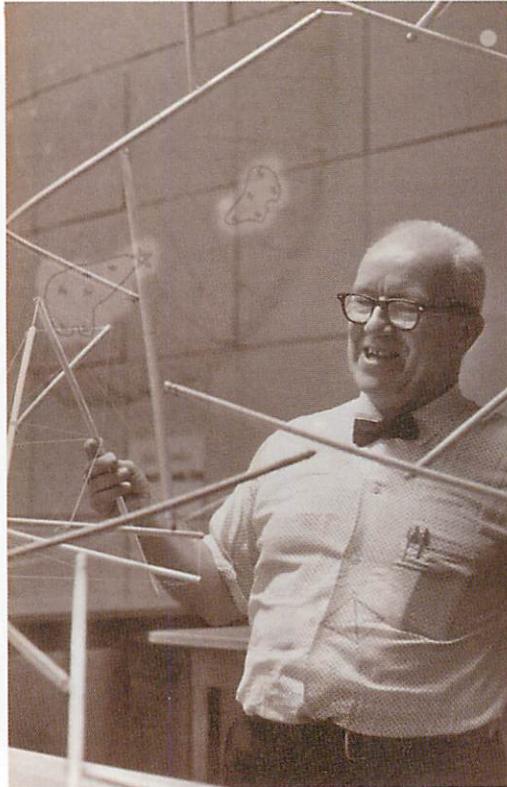
### バックミンスター・フラー

バックミンスター・フラー（以下文中バッキー）は図抜けた存在ですね。建築家であり思想家哲学者といった社会の範疇だけでは収まらない大きな存在ですね。ものすごく高い理想をもつて一方で凄く俗っぽかたり攻撃的だつたり、建築をしながら建築家を馬鹿にしていますね。いろんな矛盾を内在させている。

たとえば19世紀までは建築というと宗教建築教会しかない。すると建築家というのはその教会の権力（政治力やお金の力）によって設計を請け負つて人を教会に従わせる装置を造るわけです。

しかしバッキー自身高い理想やユートピア思想を持ちながら、その大きな思想とキヤツチボールできる相手は軍隊などの大きな権力しか無かつたんですね。実際フラーが考え出したドーム構造は軍隊の施設として最初に実用化されます。

バッキーは世界の資源の有限性に気がついて、その有限な資源を奪い合うことが戦争の原因と考えています。そこでいかに少ない資源から最大効果を得るかを考えます。有限な資源を最大限に活用すれば人類同志の争いが解決できる一助になりえると思つたんですね。今で言うプレハブやユニットバス、ユニットキッキンまで考えた人です。



フラーは新しい言葉や概念を構築する巧みな才能があった  
テンション構造のモデル『テンスグリティー』の前で



宇宙を航海する宇宙船にとって船内の平和が絶対条件だ。少ない空気と食糧とエネルギーを無駄なく等しく使わなければ、偉大な航海は出来ない。

人類が果たして偉大な航海が出来るかそれとも難破するか、今瀬戸際にたたされている。

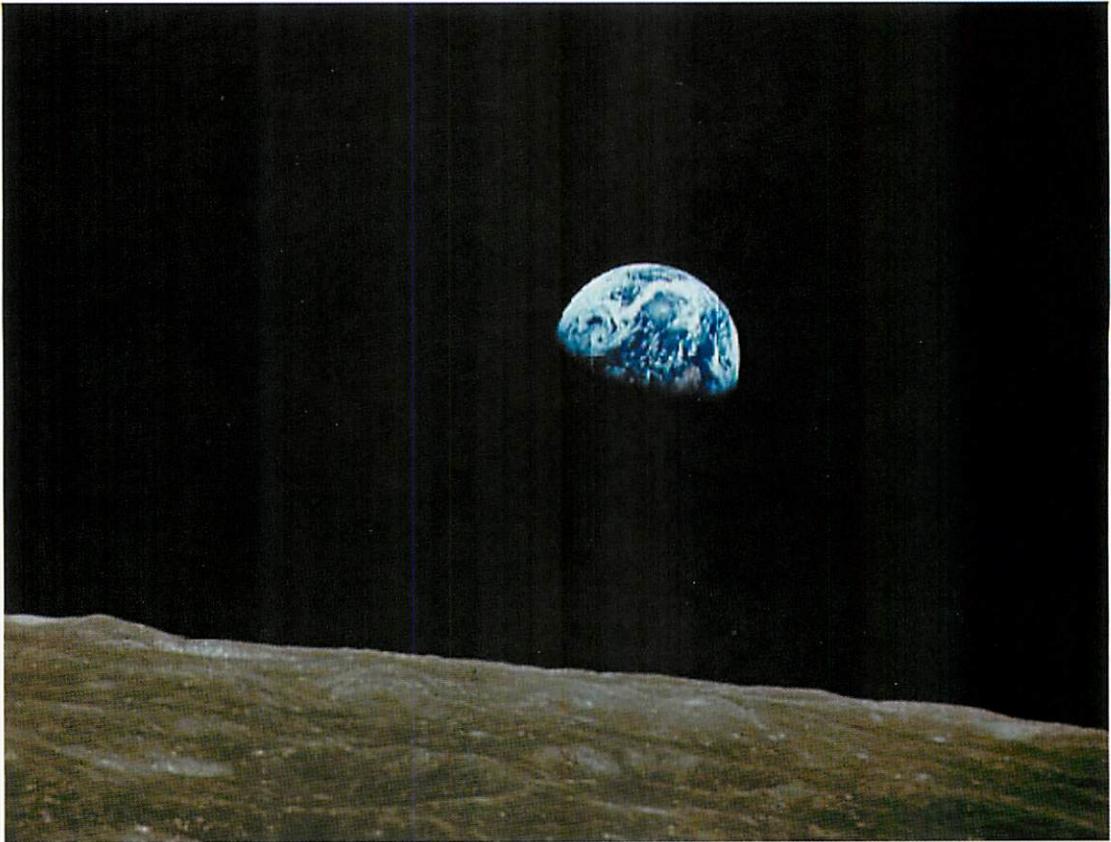


テンスグリティー（左）  
ジターバッグモデル（右）  
と北山恒氏。

ジターバッグモデルは正多面体を作る模型でフラーはこの中に宇宙の姿を見ていた。

バッキーは次々と新しい概念を生み出しそれに伴つた言葉を作り出すのも上手いですね。  
たとえば『テンスグリティー』テンション構造体です。『テンスグリティー』という名前も響きもいいですね。最初に聞いたときに夢の構造体だと思いました。建築物はそれを支える柱とか梁とかが必要です。柱でもコンクリートでもすべて固体、圧縮材です。しかし大きな建物ほど圧縮材は大きく重くなり建築物にとつて負担もまします。しかしロープの張力を使うとはるかに軽いもので建築を支えることが出来ます。

中でもドーム構造は実際すぐれたものです。しかも重量が軽くごく限られた少人数でとても大きな施設が短時間で造れますから。またドームはすべて円形ですから『円・輪・和・平和・協調・共有』という言葉の連想からも枠組みや制度から自由であろうとするヒック運動のシンボルにもなりました。



しかし現代でもこのテンション構造はテンション材が気温の変化などで伸縮するので精度が出しにくく難しい。良い素材が開発されれば実用化されますね。まだ時代の方がバツキーの考えに追いつけないとも言えますね。

そして時代に先駆けた言葉の極みが『宇宙船地球号』ですね。偏って存在する資源をより均等に平等に使えることが人類の平和に繋がると考えていました。この『宇宙船地球号』という言葉は二〇世紀最高の言葉かもしれませんね。そしてバツキーは世界に偏在する石油や石炭、水や空気を人類がいかに有效地につかえるかをシュミレートするコンピューターゲーム『ワールドゲーム』を考えます。しかしそうした価値の均一化や平均化は危険もともないます。今『スーパーフラット』という言葉がありますが、世界中の価値や意味がすべて均一化されて差異、違いが見えなくなる。異なる価値を認められない。その象徴がインターネット社会であり、アメリカの価値観や物差しを世界に拡げようとする世界標準という言葉ですね。ディズニーランド化とも言えますね。楽しければいい、今だけ良ければ良いという刹那的な価値観。資本主義はニュースになり大衆受けするものを作り生み出していきます。そうした中で失われていく大切な人の意味があります。マスコミ受けするか、ニュースに取り上げられるかだけを追いかける者が建築界にも増えてきました。バツキーは資本を利用しながら理想を現実化しようと考えました。

閉ざされた制度や思考を越えていくために一つの装置としてメガストラクチャーを提示します。マンハッタンを覆うドームとか雲のように空を浮遊して移動できる大ドーム（左図）とか。視覚的にも大きなからくり（制度）、を見せるわけですね。

フラーの思想はこうしたスーパーフラット化する閉ざされ文化が創れない時代の中で新しい地平を開く手段として、社会にギフトをおいていく作業としての建築、誰でも人や社会にギフト、ボランティアができるボランタリーエコノミーに繋がり拡がっていくと私は考えています。

北山恒展 乃木坂『ギャラリー間』  
開催中 4月27日まで  
港区南青山1-24-3 TEL03-3402-1010  
講演会 4月20日 2時から  
港区芝の建築会館ホールにて  
北山恒展 乃木坂『ギャラリー間』  
開催中 4月27日まで  
港区南青山1-24-3 TEL03-3402-1010  
講演会 4月20日 2時から  
港区芝の建築会館ホールにて

1950年弘法大師と同じ香川県に生まれる。1976年横浜国立大学建築学科卒業後、1978年ワークショップ設立。1980年横浜国立大学大学院修士課程修了。1987年同大学専任講師。1995年同大学助教授、architectureWORKSHOP設立主宰。1997年～日本女子大学非常勤講師。現在、横浜国立大学教授。主な受賞に、「HOUSE IN HOUSE」で1996年東京建築士会住宅建築賞、「白石第二小学校」で1997年第17回建築学会東北建築賞作品賞、第38回建築業協会賞（BCS賞）、1998年日本建築学会作品選奨、「LIME HOUSE」で1998年東京建築士会住宅建築賞、「Z-HOUSE」で2001年東京建築士会住宅建築賞受賞など。現在進行中のプロジェクトに、「下馬の連続住居」「二十騎町の集合住宅」「住宅K」「T.C」「東京タワリノベーション」など。INSTER FULLER

紙面が足りず今回はお話をごく一部を掲載した。

バックミンスターフラー展覧会  
原宿ワタリウム美術館で開催中 5月6日まで  
渋谷区神宮前3-7-6 TEL03-3402-3001  
バックミンスターフラー講演会 4月11日

1895年マサチューセッツ州ミルトンに生まれる。1913年ハーヴァード大学に入学するが、二度放校される。1922年海軍退役後、義父とともに建築材を扱う会社を設立。この会社は1927年に買収され、職を失う。1929年「ダイマクション」のコンセプトをつくる。「ダイマクションハウス」発表。イサム・ノグチと出会う。グリンニッチ・ヴィレッジの芸術家、知識家の間で活動。1950年 モントリオールに初めて大型のジオデシック・ドームを建設。1951年 「宇宙船地球号」という言葉を初めて用いる。1953-54年フォード自動車本社のためにドームを建設。1960年 直径2マイルのドームでマンハッタンを被う「マンハッタン・ドーム計画」1967年モントリオール万国博覧会のアメリカ館設計を依頼され、4分の3球体のジオデシック・ドームを建設。世界的に有名になる。1969年ニューヨークで「ワールド・ゲーム」セミナー。『宇宙船地球号操縦マニュアル』出版。ノーベル平和賞の候補に挙げられる。1976年『テトラスクリール』出版。1983年 7月1日心臓麻痺により死去。

お釈迦さまの真理の花束



Truly he who moves in company with fools grievers for a long time.  
Association with fools is ever painful as with a foe. Happy is association  
with the wise, even like meeting with kinsfolk.  
Therefore verily-  
The intelligent, the wise, the learned, the devout, and dutiful Ariyas associate  
with such virtuous, intellectual men as the moon(follows) the starry path.

与愚同居難

猶如怨同處

當選狀共居

如與親々會

是故事多聞

併及持戒者

如是人中上

如月在衆星



愚かなる者と

道をともにする者は  
長途に憂いあり

愚かなる者と

住まいをともにするは

怨敵とともに住むがごとく

まことの苦しみなり

されど賢き人とともに住むは

親族と相逢うがごとく

まことの楽しみなり

されば

賢くて智あり

人を聞くこと多く

忍ぶことをしり

戒めを保つ聖なる者

かくのごとき上智の善士に

月の星道を行くがごとく

従うべし

者因是三夏淨去不身諸仙天外異 又云內心妙白蓮者  
 是衆生心妙法苑施利花祕密標<sup>微</sup>花臺<sup>本</sup>華園滿均  
 莎如正開敷<sup>本</sup>此蓮花臺是資相自能知患蓮花<sup>本</sup>華是  
 不共方便也疏者云又如上所說一生補<sup>本</sup>及<sup>本</sup>地三昧是均  
 故道<sup>本</sup>一門作如意說耳 亦七之阿字內<sup>本</sup>二義謂不<sup>本</sup>二義

紙裏

密<sup>本</sup>羅第<sup>本</sup>  
 外<sup>本</sup>不<sup>本</sup>因<sup>本</sup> 今種<sup>本</sup>之本立<sup>本</sup>主宗及諸大<sup>本</sup>皆是<sup>本</sup>不<sup>本</sup>莫<sup>本</sup>  
 宗及<sup>本</sup>因<sup>本</sup> 各無<sup>本</sup>委<sup>本</sup>於<sup>本</sup>本<sup>本</sup> 本<sup>本</sup> 本<sup>本</sup> 本<sup>本</sup> 本<sup>本</sup> 本<sup>本</sup>  
 密<sup>本</sup>者<sup>本</sup>微妙<sup>本</sup>主<sup>本</sup>是<sup>本</sup>阿<sup>本</sup>善<sup>本</sup>禪<sup>本</sup>此<sup>本</sup>般若<sup>本</sup>兩<sup>本</sup>量<sup>本</sup>之<sup>本</sup>增<sup>本</sup>界<sup>本</sup>

紙表

『弘法大師墨蹟聚集』では紙の裏に書かれた状態がわかるように特別に製本されている。

『弘法大師墨蹟聚集一書の曼荼羅世界一』のお申込お問い合わせは  
 電話 03-3705-7238 ファクシミリ 03-3703-4979



## 『大日經疏要文記』 国宝 醒醐寺蔵

だいにちきょうしょようもんき

### ◆『大日經』を精読、研鑽した若き日のノートブック

弘法大師は、渡唐の何年か前に『大日經』に出会いました。大和の久米寺であると伝えられています。二十四歳で『法華經』『華嚴經』『維摩經』などの大乘經典を次々に読破しながらも、なおこれらの經典の中に求むる絶対のものが得られないまま、或いは山岳での修行を深め、或いは東大寺、大安寺などの諸大寺の經藏の中に不二の經典を探しつづけて、遂に『大日經』を手に取ることが出来たのでした。

すためになくてはならないのが『大日經疏』です。『大日經』を唐で翻訳したのは、インドのマガダ国王の家系で、ナーランダ寺で密教を学び、唐の開元四年（靈龜二年（七一六））長安に入つて、玄宗皇帝から國師として迎えられた善無畏三藏（六三七～七三五）です。

善無畏三藏が講義したものを一行阿闍梨が筆受したのが『大日經疏』全二十卷です。

弘法大師は、この『大日經疏』を傍らに置いて『大日經』を読み進めるなかで、『大日經疏』の要所要所を書き留めて行きました。その枚数もかなりの数量になっていたと思われます。

第一帙に『大日經』全七巻のうち第一巻全部を収めてあります。大師が胸躍らせる喜びで展げた『大日經』と、その書写の書体も殆ど同じ奈良時代の西大寺に伝わる『大毘盧遮那神変加持經』です。この『大日經』を読みこな

『大日經』七巻を翻訳しました。このとき訳經に携わったのが、皇帝の師として迎えられていた一行禪師（六八三～七二七）で、『大衍曆』の作者としても知られています。弘法大師は、真言五祖像を描かせ請来しましたが、そのうちの二祖が善無畏三藏と一行阿闍梨でした（第三帙第八帖収載）。『大日經』翻訳後、

その一部が反古のようになつて伝わっていたのを一巻に仕立て、『大日經開題』と題を付しました。一巻とした後、篋底からさらに四枚の紙片が見つかり、裏面に貼付されています。今回収載した図版では、この紙背紙の位置を表からも解るように表示しました。

# 現代の道しるべ

白州次郎・正子邸『武相莊』

小田急線の鶴川の駅のそばにある『武相莊』が公開された。



『武相莊』入り口

雑木林の中にこんな民家が点在して  
いたら、美しい風景が広がると思う。

ドイツでは今でも都市から少しだけ  
郊外に行くと森の中に木造の屋根の高  
い民家が点在していて、夕闇が迫るこ  
ろ、民家の窓に明かりがともると暖か  
い風景が広がって、見ても心がな  
ごむ。

日本の太い黒光りする木の柱や梁と  
白い漆喰の壁そして瓦の屋根や茅葺き  
の母屋を見ているだけで豊かな気持ち  
になれる。

白州夫妻はこの民家を自分たちの生  
活スタイルや家族構成に従って住み易  
いように年々手を入れていた。

土間の床を白い大きなタイルで敷き  
詰め応接としていた部屋には革のソ  
ファーがあり歴史を感じさせる。

和室のいろいろの周りにはさまざま  
な陶器が並んでいて、見ていても楽しい  
のが、一番気に入ったのが正子氏の書斎  
美しい雑木林に囲まれた当時はごく  
普通の民家の一つだったのだろう。

書斎といつてもわずか三畳ほどで次  
の間には書庫がついている。書庫も狭  
いが書斎と書庫が前後についている  
で使いやすい。この密度の濃い空間か  
ら正子氏独特的多くの著述が生まれた  
のがよくわかる。

## 『武相莊』

東京都町田市能ヶ谷一二八四  
電話〇四二一七三五ー五七三二



書斎

今年も桜の季節がやつてくる。今年はどここの桜を見に行こう、と思ひめぐらすだけで楽しい。昨年は『桜香』というお香の会に参加した。四月なのに雪が花のように舞い、寒さに震える中でのお香だつたが香組が終わるころには雪がやみ雲間から月が現れた。

雪月花を堪能した一  
夜だった。

『桜は枯れずに散る  
から美しいんですね』  
とだれかが言われた。

全日本ラグビーチー  
ムもユニフォームの胸  
に桜があしらつてあ  
る。

方もわからない。その予測できないボ  
ルに向かつて臨機応変の動きが選手に求  
められる。

さらにラグビーは味方へボールをパス  
する場合、常に自分より後方の選手にし  
ろ向きの仕事が大切になつてくる。しか  
しこうした時代だからこそ大きなダイナ

ミズムが生まれてくる可能性がある。  
今の日本は不良債権処理や不景気、失  
業に加え、無気力・無感動・無目的な  
人々が多くなり、ただ一時代前のように  
成長は見込めなくなつた。国も企業も後  
ろ向きの仕事が大切になつてくる。しか  
しこうした時代だからこそ大きなダイナ  
ミズムが生まれてくる可能性がある。

友人に誘われて寿司屋に行った。二十  
年前に行つた店だった。当時から評判  
だつたがその頃は店の空気はよどんでい  
て、亭主も横柄だったのでその後は行か  
なかつた。その店は昨年しめたと聞いて  
いた。

その店が新しくなつたと友人が言う。



今のはこのラグビーのゲームに似  
てている。

ラグビーの大きな特徴はボールが他の  
球技と違つて楕円形をしている。

楕円形ゆえにボールの転がりは敵も味

方もわからない。その予測できないボ  
ルに向かつて臨機応変の動きが選手に求  
められる。

店の扉を開けた瞬間、清浄の空間が拡  
がつていて驚いた。亭主が変わると店も  
これだけ変わるのがかと思った。友人との  
話も弾み料理と美術と宗教とスポーツや  
科学の深い部分での共通するものについ  
て語り合つた。

かパスすることが出来ない。後方の選手  
は前方の敵のゴールを目指す。より後  
戦力を常に意識しながらチーム全体とし  
ては前方の敵のゴールを目指す。より後  
方からチームが前に動くのでダイナミッ  
クな動きが生まれて見ていても面白い。



お大師様の比較的まとまった書論は、弘仁七年（八一六）八月十五日、嵯峨帝に上表された「勅賜の屏風を書し了へて即ち献ずるの表並びに詩」に開陳されている。この上表文が書かれた時期は、前年の四月一日に「勸請有縁衆応写秘密藏法文」を撰して弟子を甲斐、常陸などに派遣し、秘密藏經典の書写勸縁を求め、また、この年の七月八日には、勅許により高野山を賜つており、真言密教をいよいよ本格的に布教し始めた時期に当る。

六月二十七日、嵯峨帝は、布勢海に四帖の屏風を託して、高雄山の山房にいるお大師様に、二巻の古今の詩人の秀句を書くことを命じたのである。お大師様は、先月、泰範（伝教大師最澄の弟子で、お大師様の許に走る）に代わって最澄に書状を送り、「顯密二教の優劣を」弁明し、伝教大師との葛藤を乗り越えられた直後であり、真言密教の宣揚に踏みだしたばかりであつたが、嵯峨帝は、相変わらず能書家としての空海に心酔していたのである。従つてこの上表文の初段では、終

日禪定に入る修行をしているために書のこととはすつかり忘れており、ご命令を戴いて「驚悚（おどろきおそれ）喩へ難し」と述べられている。

こうした状況下で書かれた上表文であるために、そこに表現された書論は、一見、唐伝来の書論をまとめたもののように表現されているが、実は、この書論を通じて嵯峨帝を真言密教に導こうとする、お大師様のひそかな意図が秘められているのである。ただ、ここに出てくる「龍管」という表現は、前回に述べたような天皇の筆の意でなく、お大師様自らの筆を称しているのであり、嵯峨帝は書において自分の弟子であるという自負において、自ら揮う筆は帝の揮われる筆と同じであり、従つて帝の命に応じてかく書するといった意味合いが含められていく。かくしては、文中においては、天皇に比せられる太陽の光が発せられれば、ヒマワリのような私は自らそれに感じ、といった表現があるのであるが、他方では、この上表文の後ろに書かれた詩の中

では、「鳥光、忽ちに照して豪賓を点ず」とあるが、この「鳥光」は天皇たる太陽の光というよりは、大日如来の光ともいうべきイメージを備えており、「豪賓を点ず」すなわちその光に応じて私（お大師様）は書する、といったイメージが前面に出ている。ここでは、書においてお大師様と嵯峨帝とは師匠と弟子の関係にあり、それは同時に大日如來とお大師様との関係に投影されており、しかも密教へと教え導くという構図への転換……書における師匠と弟子の関係への転換……が為されつつあったのである。

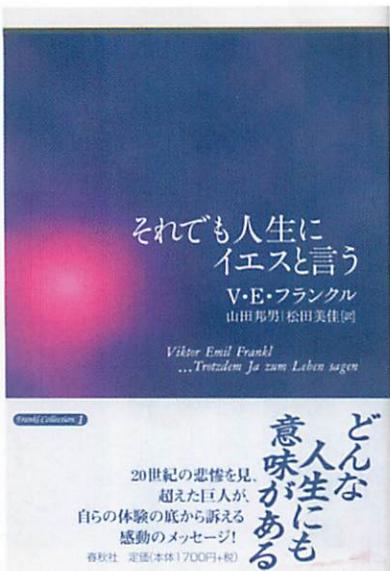
こうした転換は、それとなく進められているのであり、上表文の文面は、それはそれで一貫した破綻のない書道論としてはなりたつていているのである。このことと、あるいは真言密教的書法論を構築し得ることを意味しているのであるが、ひとまずは、この上表文の書論がいかなるものであるか、考究してみよう。

## 本の紹介

『それでも人生にイエスと言う』

V・E・フランクル

春秋社



「無気力、無感動、無目的という生きる意味を失った学生の数が八〇%にも上がり、また十代の子供達の五十万人以上が自殺を企図している。」これは約十年前の米国ゴア副大統領の講演での言葉だ。

この深刻な問題は米国だけでなく先進国すべてに内在しているが、日本ほどこの問題が切実に問われる国は無いだろう。そしてこの若者達の精神の危機は不況の中で中高年に拡大し始めている。生きる意味をすべて失われたかに思え

るナチの強制収容所から帰還したフランクルのごく初期の講演をまとめた本書は悩める現代人必読の書。

『たまゆらの道』

志村ふくみ・志村洋子

世界文化社



色の名前が日本には沢山ある。小学校でも中学でも、学校教育の中では教えられない美しい色の名前がある。染織家の母娘が美しき色を尋ねて、まとめられた一冊。手に取ると清浄な色が溢れてくる。

『エレガントな宇宙』

ブライアン・グリーン

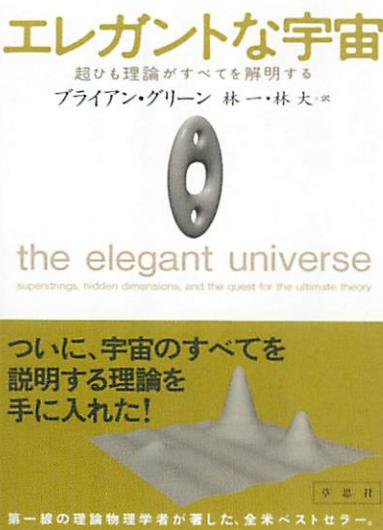
草思社

大きな宇宙を極める宇宙物理学と小さな世界を極める量子力学は両立しない。

アインシュタインも自らの相対性理論と量子力学の両立を目指していたが果たせなかつた。

漸くその二つを繋ぐ新たな理論「超ひも理論」が生まれた。

本書はこの「超ひも理論」から宇宙の姿を分かりやすく説明している。



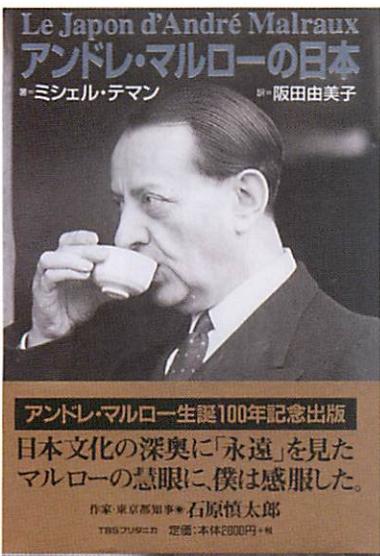
ついに、宇宙のすべてを説明する理論を手に入れた!

第一線の理論物理学者が著した、全米ベストセラー。

## 『アンドレ・マルローの日本』

ミシェル・テマン

TBSブリタニカ



J・F・ケネディが尊敬する日本人として米沢藩主上杉鷹山公の名前をあげていた。ケネディではなく海外の要人で日本の歴史や文化を深く理解し日本を愛する者は多い。中でもアンドレ・マルローほど日本を愛した学者であり政治家であった人は少ない。現フランス大統領J・シラク氏が大の日本びいきなのはマルローの大きな影響による。日本と日本の文化が愛せない日本人も多くなったがマルローがなぜ日本を愛したかがわかる一冊。

## 『ドラえもん 人物日本の歴史』

空海

小学館



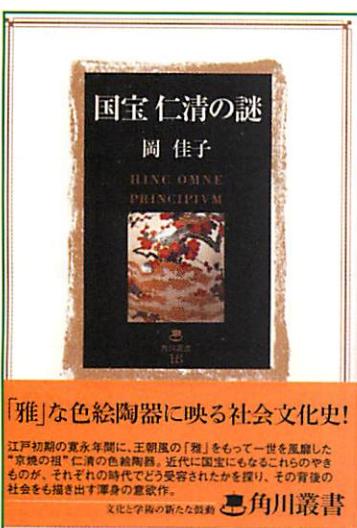
四国をお遍路する人の数は毎年十万人以上。年々若い人が増え、しかも歩いて回る人が多くなった。

それにともない空海のよき入門書が求められるが、本書はドラえもんという人気キャラクターをガイド役に、空海の世界を分かりやすく案内してくれる。

## 『国宝仁清の謎』

岡佳子

角川書店



華やかな作風で知られる仁清。国宝に二点が重文には十九点も指定され、日本を代表する陶芸家だろう。本名を清衛門といい御室仁和寺門前に窯を構え仁和寺の仁の字と本名の清を合わせ仁清と名乗る。

華やかな茶道を開いた金森宗和に好み多くの作品を作り出していった仁清だが、本書はその仁清の生きた時代や社会まで浮き彫りにする。



次回発行は7月1日予定  
特集 祇園祭

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA

Editorial Staff/ SAMURO MIWA TOKUMARU KOJI MOTOYAMA KAZUFUMI Ooyama CHIGUSA

Homepage Design MASAAKI OKA HIROYUKI HANAWA YASUHIRO SATAKE

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C Making Mechanic SANMITUSHA+BENRIDO Printing KORINKAKU

〒158 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第二十二号 平成十四年弥生一日発行